

2019年3月期決算 会社説明会 および中期経営計画2019について

2019年6月4日

山口フィナンシャルグループ

目次

2018年度決算概要

- 1) 2018年度決算概要(連結)	4
- 2018年度決算経常利益増減要因(連結)	5
- 2018年度決算概要(銀行単体)	6
- 2) 貸出金①	7
- 3) 貸出金②	8
- 4) 与信費用・不良債権	9
- 5) 役務関連収益	10
- 6) 有価証券	11
- 7) 自己資本比率(連結・銀行単体)	12
- 8) 2019年度通期業績予想(連結・銀行単体)	13
- 2019年度通期業績予想(連結)_経常利益増減要因	14

新中期経営計画

- 中期経営計画2016の振り返り	16
- 中期経営計画2019の方針	18
- 中期経営計画2019の基本目標/ビジネスモデル	19
- 基本目標1 地域共創モデルの確立	21
- 基本目標2 金融モデルの“SHINKA”	25
- 基本目標3 銀行文化と起業家精神の融合	32
- 有価証券運用	33
- 中期経営計画2019の財務目標/利益計画	34
- 政策投資株式/配当/コーポレートガバナンス	36
参考資料	38

2018年度決算概要

1) 2018年度決算概要(連結)

(億円)	2017年度	2018年度	前期比
コア業務粗利益	1,090	996	▲ 94
資金利益	907	880	▲ 27
うち預貸金利益	694	707	+12
うち有価証券利息配当金	231	199	▲ 31
役務取引等利益	184	148	▲ 36
経費(△) (臨時処理分除く)	705	710	+4
コア業務純益	385	286	▲ 99
経常利益	478	334	▲ 143
親会社株主に帰属する当期純利益	329	231	▲ 97
与信関係費用(△)	11	76	+64
経費(△) (臨時処理分含む)	725	713	▲ 12
有価証券関連収益	317	299	▲ 17

決算概要

- >> 親会社株主に帰属する当期純利益は、過去最高益を更新した前年度から97億円減少
- >> 主な要因
 - ・ 与信費用の増加(+64億円)
 - ・ 役務取引等利益の減少(▲36億円)
 - ・ 有価証券関連収益の減少(▲17億円)

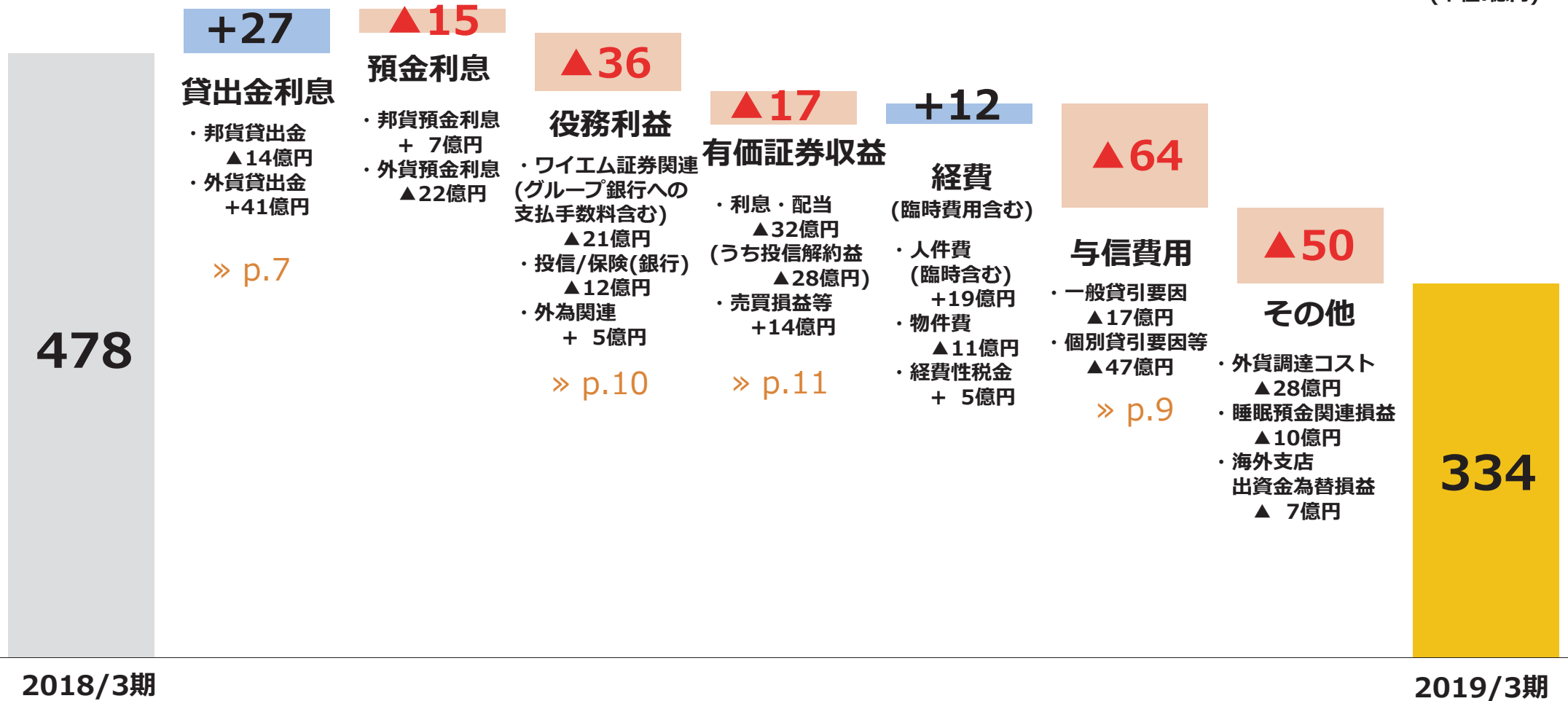
連単差

3行合算当期純利益	290億円
のれん償却費	▲3億円
FG連結調整等	▲55億円
YMFG連結当期純利益	231億円

2018年度決算 経常利益増減要因(連結)

» 貸出金、役務、有価証券、与信費用については各ページに詳細記載

(単位:億円)



2018年度決算概要(銀行単体)

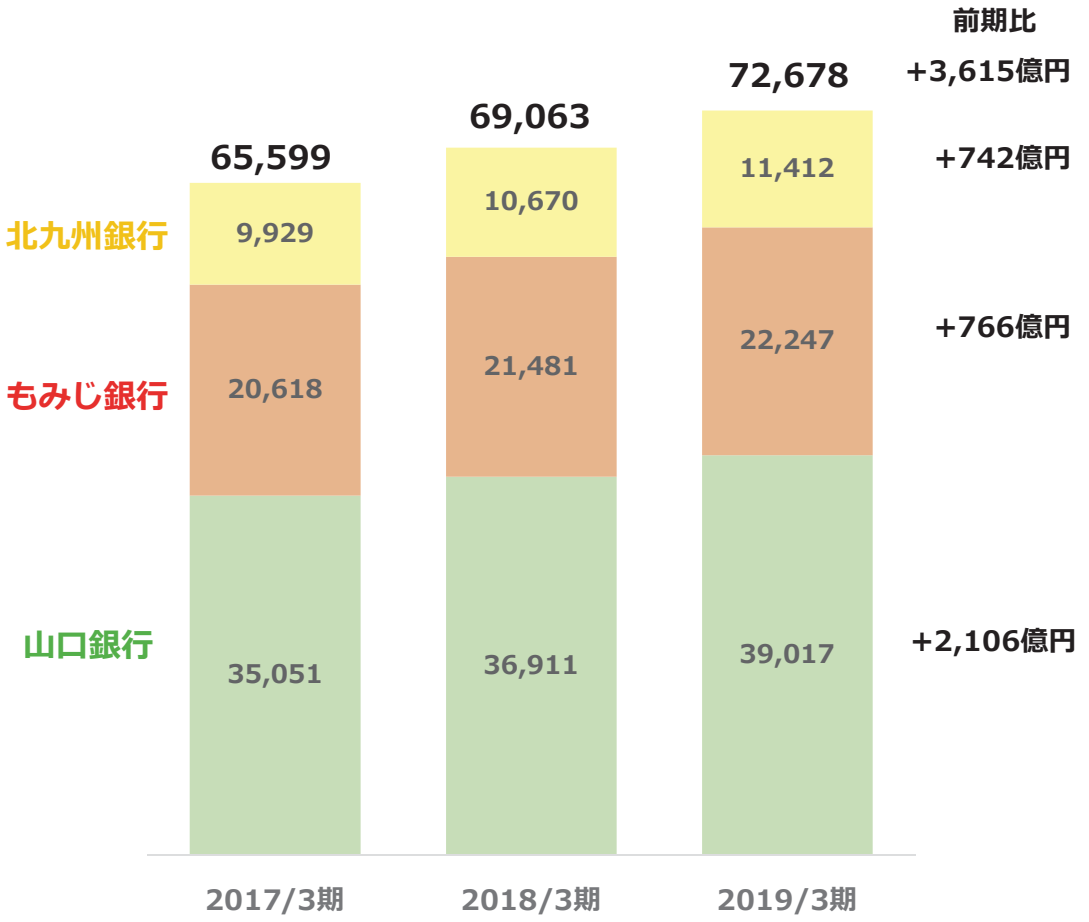
» グループ3行で役務取引等利益が減少 山口銀行と北九州銀行は与信関係費用が増加したことも減益要因

(億円)	3行合算		山口銀行		もみじ銀行		北九州銀行	
		前期比		前期比		前期比		前期比
コア業務粗利益	900	▲ 78	495	▲ 24	289	▲ 51	115	▲ 2
資金利益	891	▲ 22	507	+13	272	▲ 38	110	+2
うち預貸金利益	711	+13	379	+13	222	▲ 3	108	+3
うち有価証券利息配当金	199	▲ 32	134	▲ 0	59	▲ 31	6	+0
役務取引等利益	83	▲ 38	58	▲ 19	21	▲ 15	3	▲ 4
経費 (△) (臨時処理分除く)	566	▲ 8	281	▲ 0	208	▲ 2	76	▲ 4
コア業務純益	333	▲ 69	214	▲ 23	80	▲ 48	38	+2
経常利益	381	▲ 113	252	▲ 74	96	▲ 24	32	▲ 14
当期純利益	290	▲ 75	187	▲ 52	77	▲ 14	25	▲ 9
与信関係費用 (△)	73	+62	51	+43	13	+4	8	+13
経費 (△) (臨時処理分含む)	568	▲ 27	281	▲ 14	209	▲ 7	77	▲ 5
有価証券関連収益	294	▲ 19	208	▲ 15	80	▲ 2	5	▲ 3

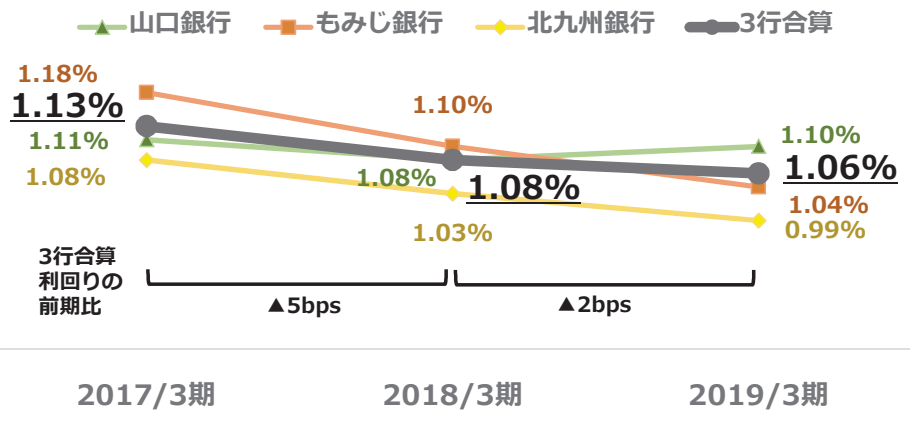
2) 貸出金①

- » 貸出金利回りは依然低下傾向だが、低下幅は鈍化
- » 3行合算の貸出金利息額ベースでは、利回りの低下を残高増によりカバーし前期比+29億円

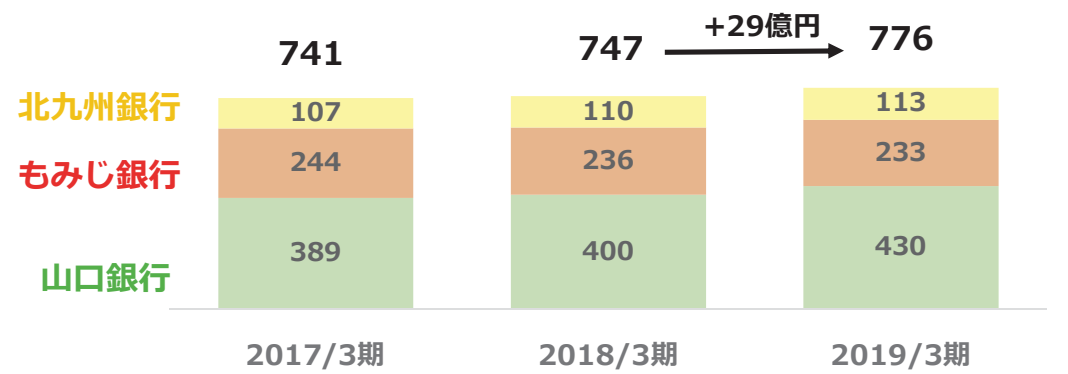
貸出金残高(平残/銀行別) (単位:億円)



貸出金利回り



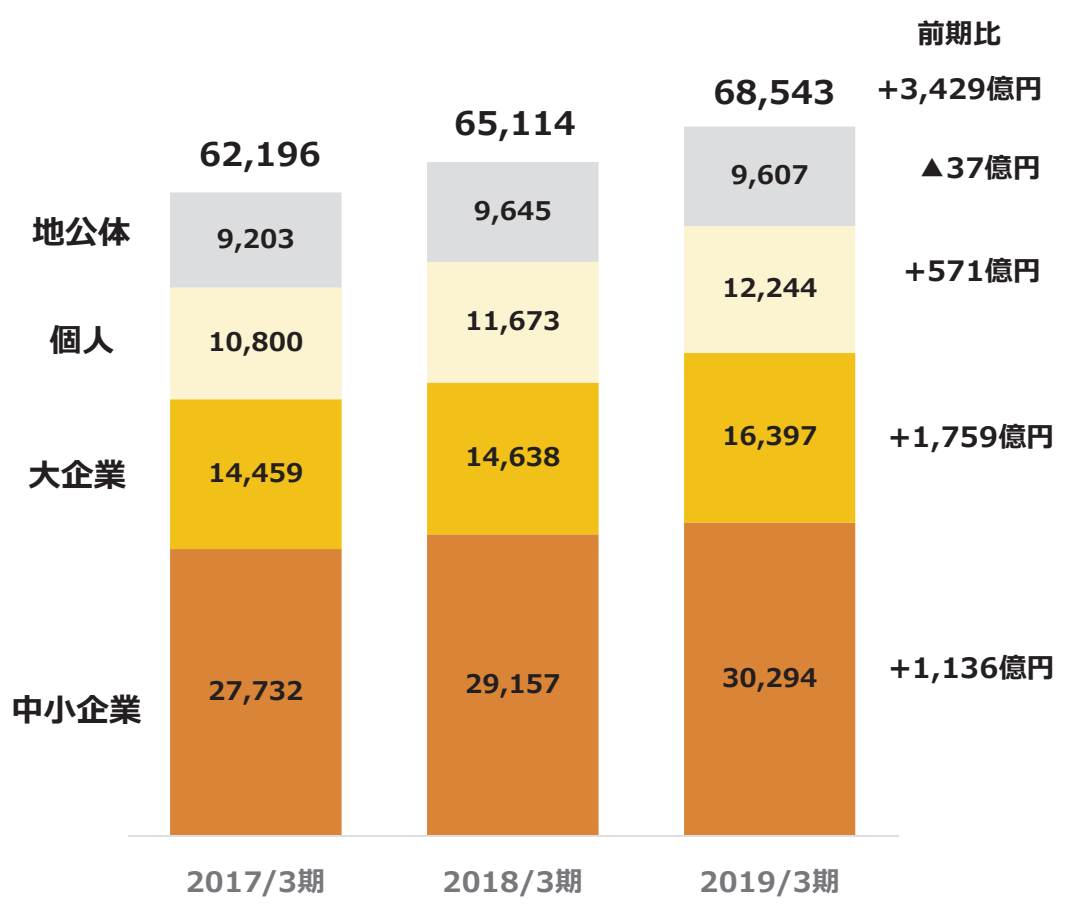
貸出金利息(3行合算) (単位:億円)



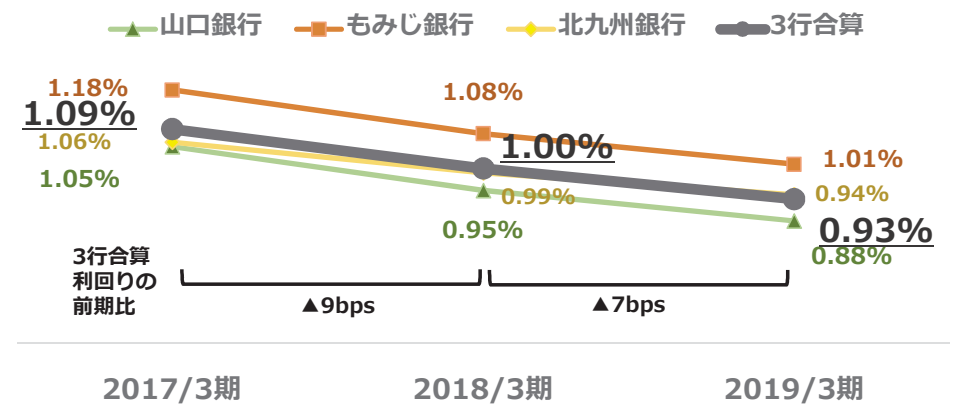
3) 貸出金②

- » 中小企業、大企業中心に貸出金残高は増加させるも、利回りの低下により貸出金利息は▲12億円
- » 邦貨貸出金利回りについては低下幅は縮小傾向

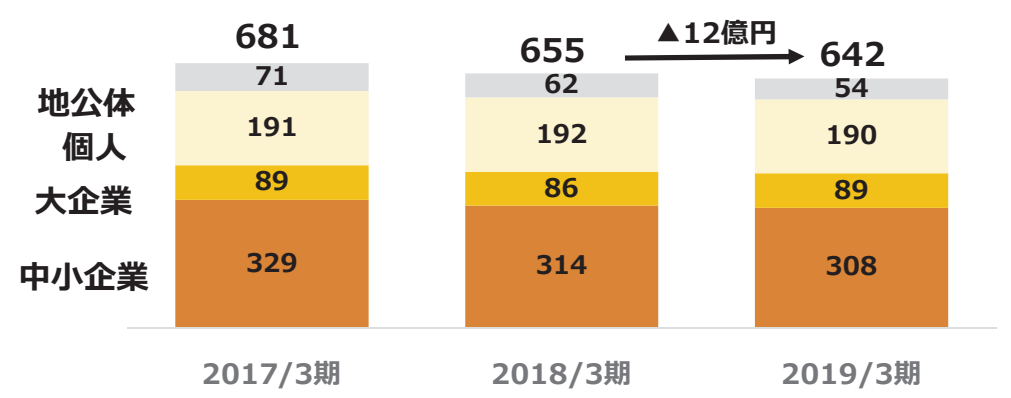
邦貨貸出金残高(平残/事業体別) (単位:億円)



邦貨貸出金利回り



邦貨貸出金利息(3行合算) (単位:億円)

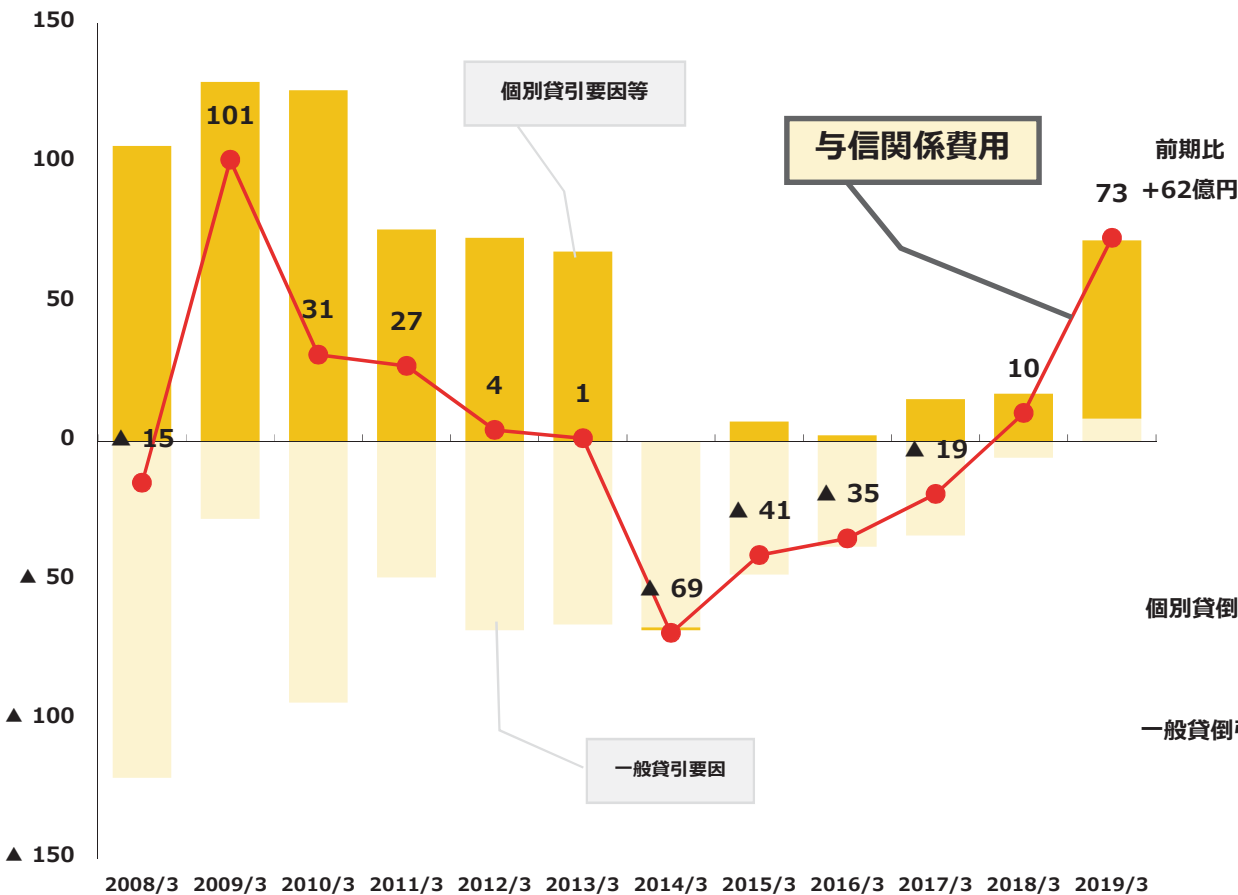


4) 与信費用・不良債権

- » 与信関係費用(3行合算)は地元企業の再生支援を目的としたものも含め、前期比+62億円の増加
- » 金融再生法開示債権残高は前期と同水準を維持 一般貸倒引当金残高は積み増し局面に入り+10億円の増加

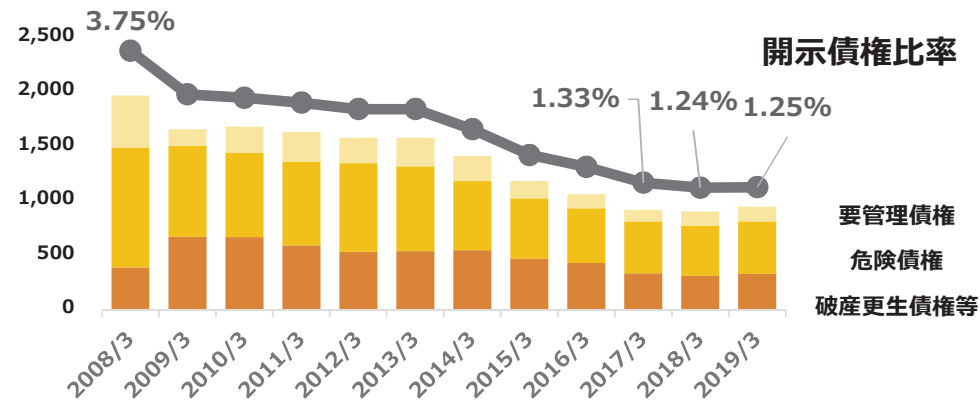
与信関係費用(3行合算)

(単位:億円)



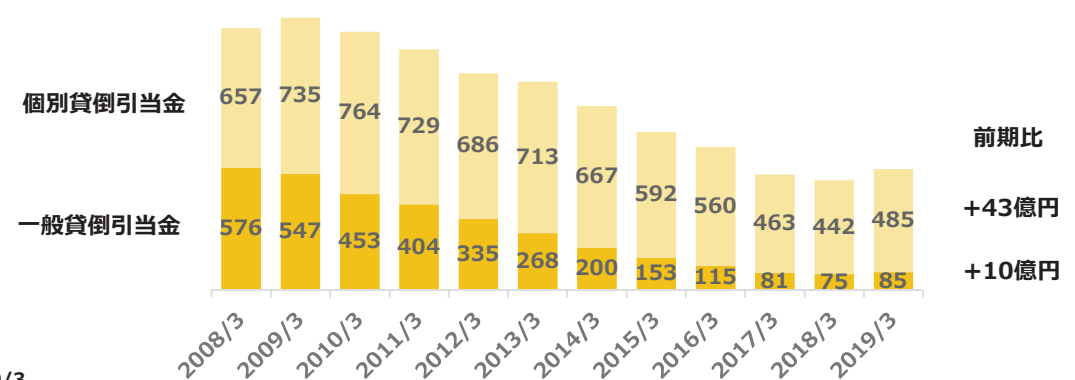
金融再生法開示債権残高(3行合算)

(単位:億円)



貸倒引当金残高(FG連結)

(単位:億円)



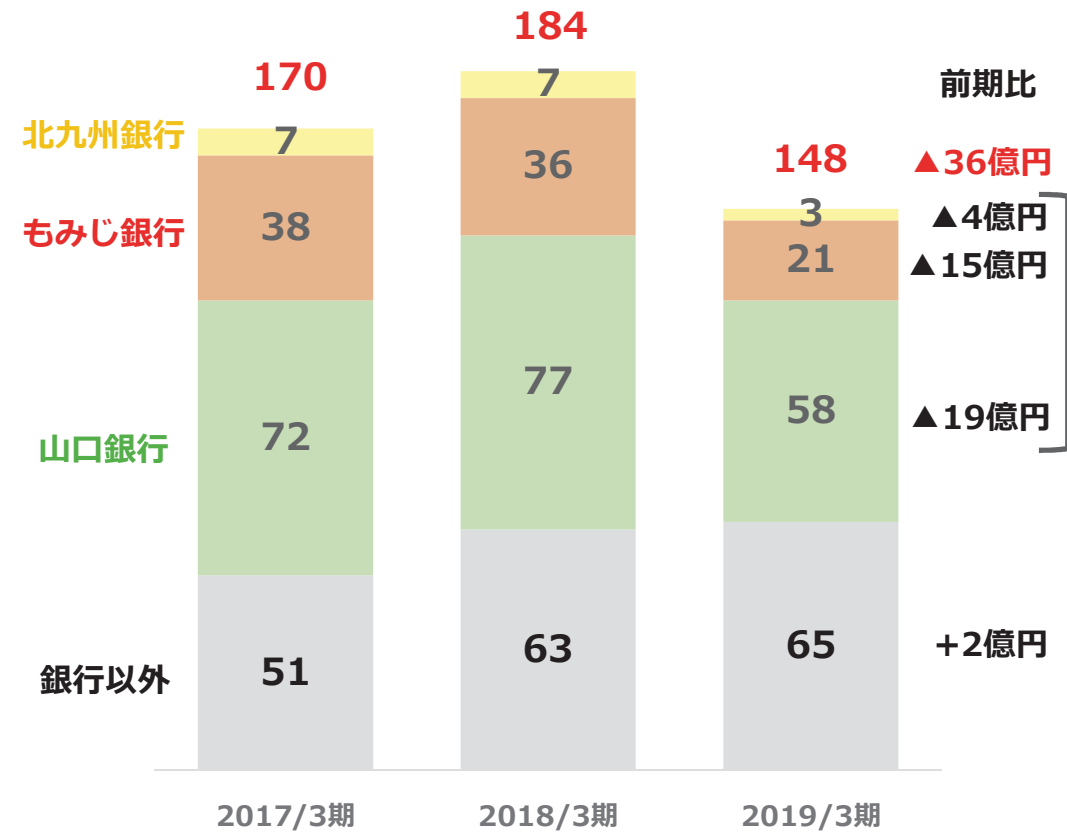
5) 役務関連収益

» 投信・保険・証券手数料減少の影響等により連結役務取引等利益は▲36億円

役務取引等利益(FG連結)

(単位:億円)

変動要因



3行合算
▲38億円

<3行合算内訳>

- ・ 投信/保険販売手数料 ▲12億円
- ・ ワイエム証券仲介手数料 ▲19億円
- ・ 団信保険料/ローン保証料 ▲3億円
- ・ その他 ▲4億円

ワイエム証券営業収益

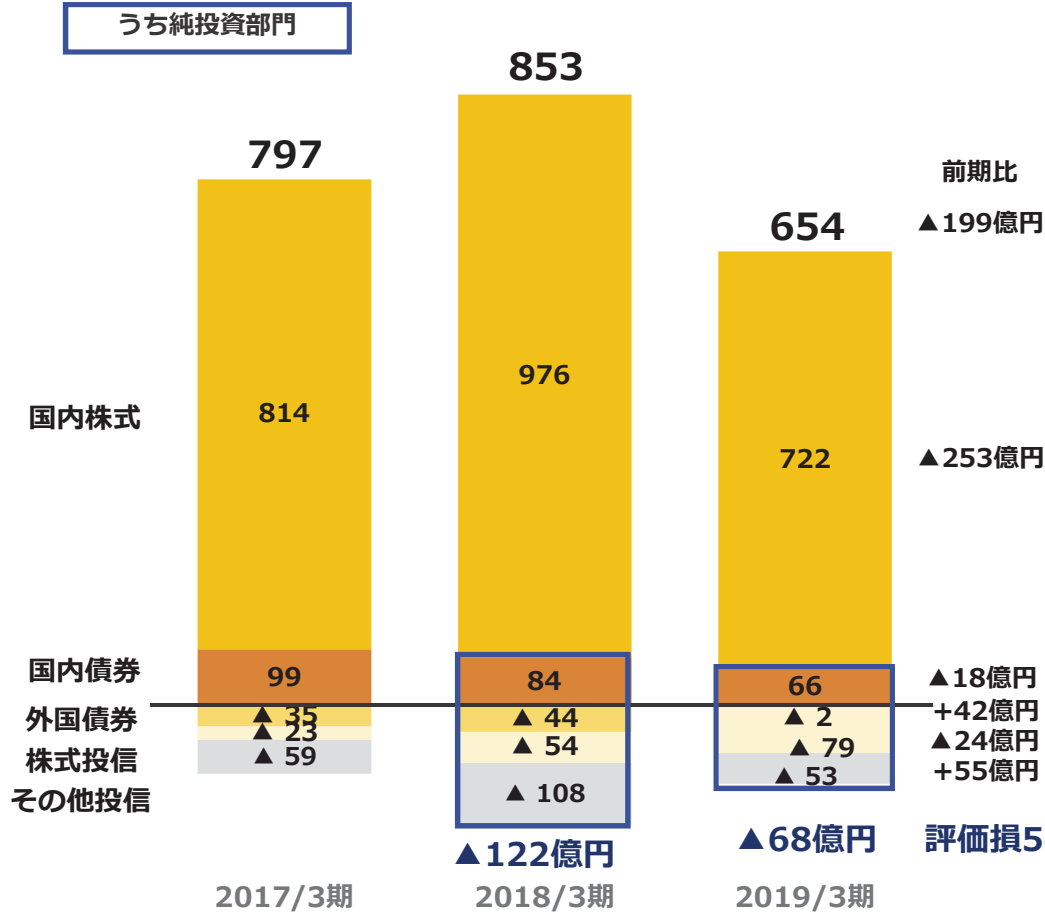
(単位:億円)



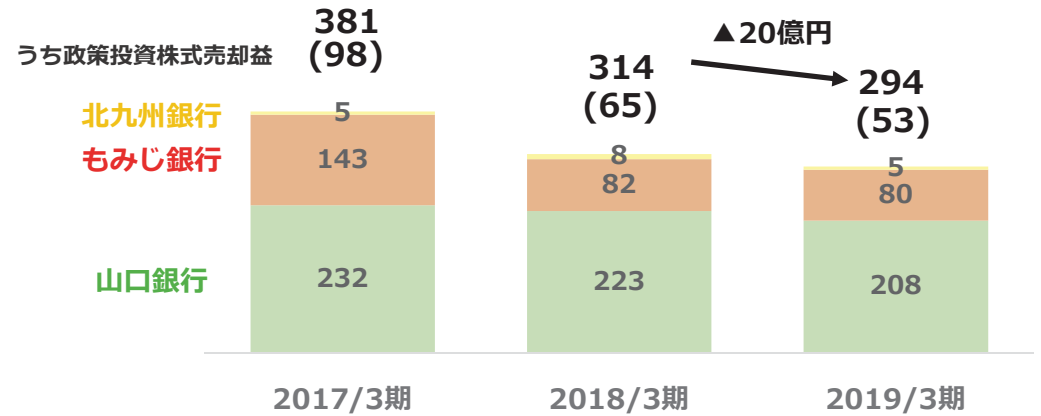
6) 有価証券

- » 政策投資株式売却益を含み損資産圧縮に充当(約130億円の口スカットを実施) 今後も計画的な圧縮を図る
- » ポートフォリオ良化を図ったことも要因として有価証券収益は3行合算ベースで20億円減少

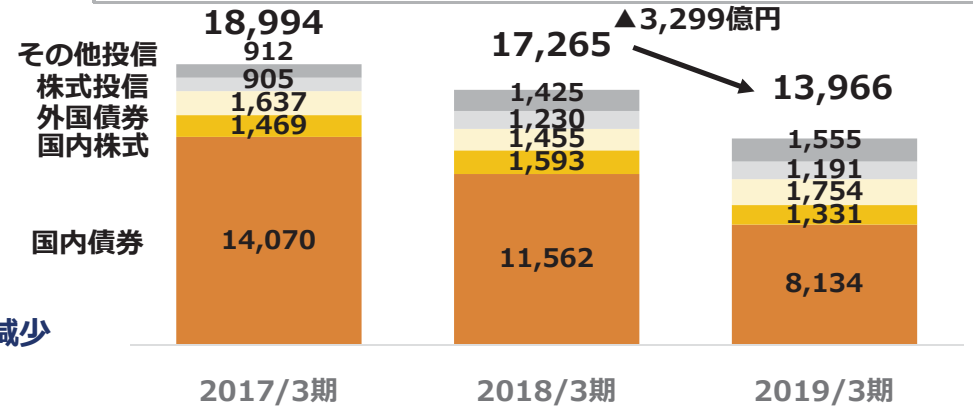
その他有価証券の評価損益(3行合算) (単位:億円)



有価証券関連収益(3行合算) (単位:億円)



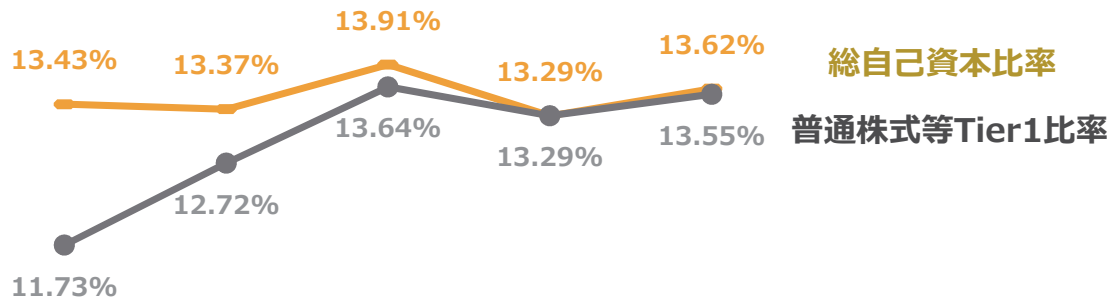
有価証券時価残高(3行合算) (単位:億円)



7) 自己資本比率(連結・銀行単体)

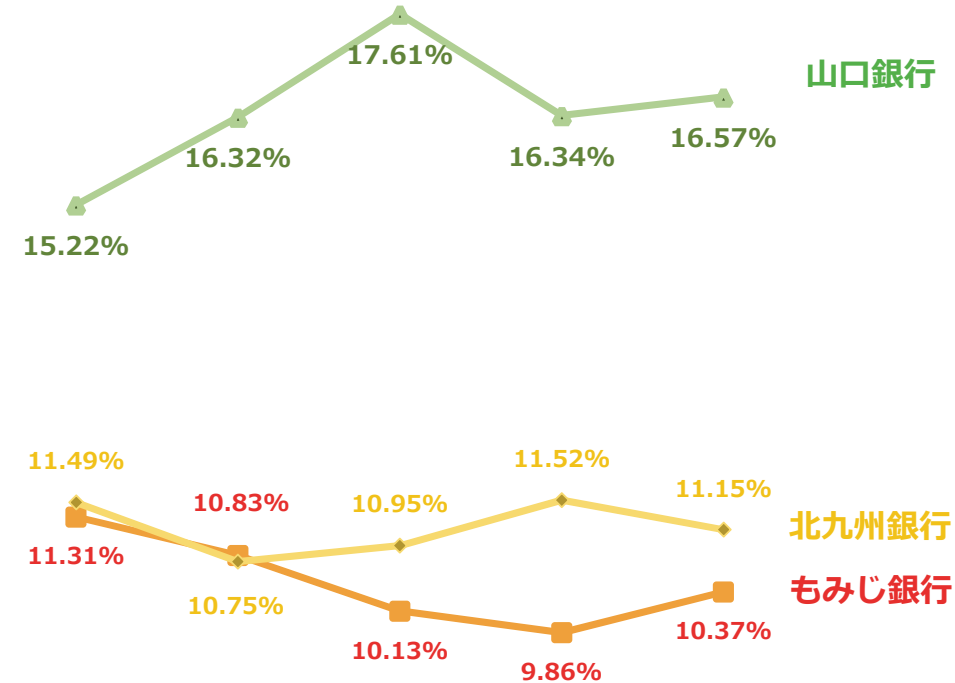
- ▶ 期間利益の積み上げにより、山口FGの連結総自己資本比率は前期比+0.33%の13.62%
- ▶ もみじ銀行はリスクアセット減少(投資信託等)により10.0%台に上昇

山口フィナンシャルグループ連結



2015/3期 2016/3期 2017/3期 2018/3期 2019/3期

グループ内銀行の自己資本比率



2015/3期 2016/3期 2017/3期 2018/3期 2019/3期

8) 2019年度通期業績予想(連結・銀行単体)

» 今期からスタートする中期経営計画2019の推進により、経常利益400億円、当期純利益265億円を見込む

(億円)	FG連結		山口 銀行		もみじ 銀行		北九州 銀行	
		前期比		前期比		前期比		前期比
コア業務粗利益	1,015	+18	481	▲ 14	287	▲ 1	125	+9
資金利益	850	▲ 30	487	▲ 19	253	▲ 18	114	+3
うち預貸金利益	732	+24	395	+16	228	+5	112	+4
うち有価証券利息配当金	141	▲ 58	100	▲ 34	34	▲ 24	6	+0
役務取引等利益	203	+54	77	+19	34	+12	8	+5
経費(△)(臨時処理分除く)	711	+0	275	▲ 6	204	▲ 3	75	▲ 1
コア業務純益	304	+17	206	▲ 8	83	+2	49	+10
経常利益	400	+65	290	+37	104	+7	47	+14
(親会社株主に帰属する)当期純利益	265	+33	205	+17	80	+2	35	+9
与信関係費用(△)	52	▲ 24	25	▲ 26	17	+3	6	▲ 2
経費(△)(臨時処理分含む)	708	▲ 4	272	▲ 8	202	▲ 6	76	▲ 1
有価証券関連収益	266	▲ 33	197	▲ 11	62	▲ 18	6	+0
貸出金平残	75,774	+3,098	40,774	+1,757	23,090	+843	11,910	+498
貸出金利回り(%)	1.06%	▲0.00%	1.10%	+0.00%	1.03%	▲0.01%	0.98%	▲0.01%

2019年度通期業績予想(連結)_経常利益増減要因

» 今期からスタートする中期経営計画2019の推進により、経常利益400億円を見込む

(単位:億円)

